

【公表】児童発達支援事業所における自己評価総括表

(別紙3)

○事業所名	はぐくみプラス			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ドローン療育やデジタル療育を取り入れた先進的な支援を行っています。	ドローンやタブレットを使った支援を行うことで、子どもたちが楽しみながら学び、成長できるよう工夫しています。	より充実した支援を提供するために、支援プログラムの拡充を進めていきます。子どもたちの興味や発達段階に応じた新しいプログラムを導入し、多様な学びの機会を提供していきます。
2	子どもたちが楽しみながら学べる環境を整え、発達を促すプログラムを提供しています。	スタッフの専門性向上にも力を入れており、定期的な研修を実施し、支援の質を高めています。さらに、保護者との連携を重視し、子どもたちの成長を共に見守るために定期的な面談やフィードバックを行っています。	地域の福祉施設や教育機関と連携を強化し、支援の幅を広げることに取り組んでいます。さらに、定期的な自己評価を行い、外部の意見も取り入れながら、より良い支援を目指して改善を続けていきます。
3	個別支援にも力を入れており、一人ひとりの特性に応じた支援計画を作成し、きめ細やかなサポートを実施しています。また、安心して通える施設づくりを心がけ、子どもたちがのびのびと過ごせる温かい環境を大切にしています。		

【公表】児童発達支援事業所における自己評価総括表

(別紙3)

○事業所名	はぐくみプラス			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月5日			

○ 分析結果

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ドローン療育やデジタル療育を導入していますが、すべての子どもに適したプログラムのバリエーションをさらに増やす必要があります。特に、個々の発達段階や興味に応じた柔軟なプログラム設計が求められています	ドローン療育やデジタル療育に精通したスタッフの育成・確保が課題となっています。専門性の高い療育を提供するためには、研修制度や育成プログラムの充実が必要です。	スタッフの育成と働きやすい環境づくりを両立すべく研修や学習機会を充実させることで、スタッフのスキルアップを図ります。また、業務の効率化を進め、働きやすい環境を整備することで、支援の質を向上させます。
2	専門性の高い支援を提供するため、スタッフには高度な知識や技術が求められます。しかし、日々の業務負担が大きくなることで、支援の質を維持しながら効率的に業務を進める工夫が必要です。	支援プログラムの個別最適化を図るべく既存のプログラムがすべての子どもに適しているわけではなく、より個別化された支援を実施するための柔軟な対応が求められています。	学校や他の福祉施設、専門機関と積極的に連携し、支援の幅を広げることで、より包括的なサポートができるようにします。
3	地域の学校や他の福祉施設との連携をさらに強化し、子どもたちがより幅広い支援を受けられる体制を整えていくことが求められます。		子どもたちが安心して学び、成長できるよう、施設の設備を充実させ、最新技術を活用できる環境を整えます。 はぐくみプラスでは、これらの課題を一つひとつ解決しながら、子どもたちにとって最適な支援を提供できる事業所を目指してまいります。